

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2007～2009

課題番号：19320030

研究課題名（和文）テキストとしてのコレクション：アート・コレクション制度の成立とその
読解

研究課題名（英文）Collection as a Text: The Formation of Art Collecting and its Readings

研究代表者

遠山 公一（TOYAMA KOUICHI）

慶應義塾大学・文学部・教授

研究者番号：90227562

研究成果の概要（和文）：古代から近世におけるヨーロッパの蒐集行為を広く包括的に検討し、美術史研究においてコレクションの観点がいかに有効であるかを実証した。すなわち、古代ローマのサルティウス庭園、ブルゴーニュ公国、イタリア 13 - 7 世紀、フランス・スペイン 17-8 世紀などにおける、聖遺物・宝飾品・絵画・彫刻・工芸の蒐集の実態と諸問題（財産目録の記述・分類、新たなジャンルの創設、展示、政治性、作家の再評価）についての考察を深めた。

研究成果の概要（英文）：We comprehensively examined the practice of art collecting in Europe from antiquity to the early modern period and demonstrated the validity of investigating art history from such a perspective. Namely, we examined the practice of collecting reliquaries, jewelry, paintings, sculptures, and crafts, covering a wide range of locations and periods including the Gardens of Sallust in Ancient Rome, the Duchy of Burgundy, Italy from the 13th to 17th centuries, as well as France and Spain from the 17th to 18th centuries. Furthermore, we discussed a variety of related issues such as the description and classification of inventories, establishment of new genres, display and preservation, politics, and reevaluation of past artists.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2007 年度	4,400,000 円	1,320,000 円	5,720,000 円
2008 年度	2,900,000 円	870,000 円	3,770,000 円
2009 年度	1,500,000 円	450,000 円	1,950,000 円
年度			
年度			
総計	8,800,000 円	2,640,000 円	11,440,000 円

研究分野：美学美術史

科研費の分科・細目：美術史

キーワード：コレクション、パトロネージ、美術史、博物館学、宮廷、展示、蒐集、

1. 研究開始当初の背景

(1) 研究代表者が2002 - 3年に在籍したオックスフォード大学において、同大学フランス・ハスケル教授の残した業績、*Journal of the History of Collections* (1989-) などのコレクションに関する専門誌の刊行、アシュモリアン美術館・自然史博物館・民俗学博物館などの歴史・設立経緯に接し、コレクションをめぐる研究の意義についての認識を得る。

(2) 2004年度に慶應義塾大学にて行った美術品蒐集をめぐる講義において、主にイタリア・フィレンツェにおけるメディチ家コレクションの歴史を論じ、昨今の欧米における甚大なコレクション研究の実態を知る。

(3) 人類がモノを集めることによって生じる様々な現象を集約的に見た結果、そこから美術史・博物館学・文化人類学・心理学などにおよぶ広範囲の議論が生じ、様々な研究成果が問われている現状が認識され、学際的な研究の必要性が痛感される。慶應義塾大学内外の多くの研究者の賛同を得て、時間的・地域的に広範囲におよぶ研究が可能である体制ができあがる。

2. 研究の目的

(1) 今日の美術史研究は、作品や制作者に関する、つまり作る側に関する研究と共に、使う側に関する研究が盛んになってきている。使う側とは芸術の享受者一般から、パトロンとも呼ばれる寄進者・注文主・擁護者など、あるいは研究、展示、教育などを行う個人、組織のことを差し、芸術作品とされるものの機能、用途、目的に深く関わる視点が重要視される。その時、これまでは中世・近世作品をめぐる当初の制作意図をはかるために、作品をオリジナルの場所に返し、作品が本来もつ機能の回復を期してきた研究姿勢が求められてきたが、ここではその姿勢を逆転することが必要である。すなわち、モノが当初の場所から離れ、第三者による蒐集対象と化す過程で生ずる宗教的機能・社会的機能の変化および剥奪、そして新たな装飾的機能および美的日常的な機能の獲得である。例えば、聖堂内に置かれていた祭壇画は、私邸や宮廷内に蒐集され、一介のコレクション・アイテムと化すことによって、宗教的機能を喪失し、

新たな展示・保存の美的装飾的機能を獲得し、および蒐集家のプレステージを増すための政治的效果を発揮する。以上の過程を精査する。

(2) 蒐集家が作品の依頼主・委嘱者（パトロン）を兼ねる場合が少なくない。その場合は、作品解釈・新たなコレクションのための作品ジャンルの創出（ドメスティックな小彫刻やメディチ磁器など）が行われたのではないかとする仮説を論証する。

(3) 蒐集したモノを保存・展示・公開するために適した形状・サイズ・展示法が求められる。さらにそれに適した保管・展示場所としてスクリットイオやストゥディオオーロ（書斎）があつたえられ、17/8世紀のヴンダーカンマーWunderkammerと呼ばれる珍品貴品展示室の原型となる過程を明らかにする。

(4) 教会が聖遺物を集め、宮廷が古代遺物や美術品を集める実態を把握し、そこにまつる宗教的・政治的意図を詳らかにする。

(5) コレクション研究の史料として財産目録が挙げられるが、目録に掲載・分類するにあたり、その記述が美術史学の成立にかかわる可能性を模索する。

(6) 近代の作家作品評価・美術史研究について果たしたコレクション及びコレクション研究。

以上、アート概念の成立と蒐集、展示・所蔵の手段と空間、政治性、財産目録とカタログ、美術作品の流通、個人コレクションと近代などの課題を論じ、アート・コレクションの成立とその解釈を目的とする。

3. 研究の方法

(1) 一次文献資料としての財産目録等の入手・精査（例、フィレンツェ国立古文書館所蔵のメディチ家の財産目録 *Lorenzo de' Medici*, 1492 など）

(2) 二次文献資料としての先行研究の渉猟（例、*Christopher B. Fulton, An Earthly*

Paradise: The Medici, their Collection and the Foundations of Modern Art, Florence, 2006)。

(3) 財産目録に掲載された作品の比定。(1) および(2)の資料に挙げられた作品の検証と新たな掘り起こしのために、渡欧して作品の実見および資料収集(例、フィレンツェ、ピッティ宮銀器博物館訪問および研究者との意見交換)。

(5) 内外の研究者を招聘し、意見の交換および指導を受ける(ジュリアン・ガードナー教授)。

(6) シンポジウムを開催し、研究代表者・研究分担者・研究協力者による各研究成果を討議する。

4. 研究成果

代表者、および4名の分担者以外、11名の研究協力者が渡欧による資料文献渉猟と作品実見を通して研究活動を展開し、シンポジウムを経て、学会発表や論文発表の他に、研究報告書を準備する。

(1) ウォーリック大学ガードナー教授夫妻を招聘し、講演および研究指導を受ける(2008年11月)。

(2) 研究代表者と研究分担者および研究協力者は、二度の研究シンポジウム(2009年1月23日および2010年1月30日)を経て、それぞれの研究活動成果の報告を行う。

シエナの画家サセッタ作《サンセポルクロ祭壇画》の研究発表を米国ハーヴァード大学刊行のモノグラフに発表すると同時に、15世紀メディチ家における彫刻コレクションを対象に、私邸での蒐集を対象に新たにドメスティックな彫刻作品ジャンル(小ブロンズ彫刻、胸像型肖像彫刻、薄肉浮彫)が開発されたこと、およびその展示の工夫(台座や額縁)についての研究(代表者遠山公一)。

17世紀フィレンツェのメディチ家のグアルダローバ資料の入手とその検証を通して、ピッティ宮の各部屋における板絵およびタペストリーの展示と外交プロトコルの関係の検証(分担者金山弘昌)。

17世紀フランスのブッサン研究および仏宮廷とアカデミーにおける蒐集にまつわる鑑識眼・目利き(コネッサージュ)に関する議論(分担者望月典子)。既発表と共に、2010年7月美術史学会例会において発表予定。

16世紀ヴェネツィアのティツィアーノ研

究およびグリマーニ家所有の宝飾品(カメオ)のレプリカを私邸に展示する政治的意味の検証(分担者細野喜代)。

13-4世紀イタリアにおける特にプラートにおける聖遺物蒐集の問題および《聖ゼノビウス祭壇前飾り》に関する図像研究(分担者金原由紀子)。

15世紀メディチ家絵画蒐集における祈念像から美術蒐集アイテムへの変化(分担者出佳奈子)。

15世紀ブルゴーニュ公国フィリップ善良公のタペストリー蒐集の政治的解釈(協力者・尾道大学非常勤講師 今井澄子)。

ヴェネツィアにおける聖遺物蒐集とその保存先リストの提出(協力者・慶應大学 GCOE 研究員 星聖子)。

15-6世紀メディチ家における宝飾品蒐集(カメオ、インタルシア)の検証と政治的意味の考察(協力者・慶應大学博士課程 西川しずか)。

15-6世紀メディチ家が所有した陶器と、製作させたメディチ磁器の所在確認および意義の精査(協力者佐藤サアラ)。東洋陶磁学会にて発表予定。

スペイン 17-18世紀フェリペ3世下のコレクションにおける静物を主題とする絵画の意味(協力者・学振研究員・早稲田大学文学部講師 諸星妙)。

15-16世紀マントヴァ、ゴンザーガ家における美術蒐集と展示について(協力者・慶應大学非常勤講師 神谷久美子)。

古代ローマ、サルスティウス庭園における美術蒐集(協力者・慶應大学博士課程 小泉篤土)。

16世紀ポローニャのアルドロヴァンディによる自然物の蒐集について(協力者・国立新美術館非常勤学芸員 小林明子)。

フランス 18世紀フランソワ・カコー、イタリア駐在仏人外交官の絵画コレクション研究(協力者・明治学院大学講師・美術史学会幹事 大谷公美)。

ピエロ・デラ・フランチェスカの再評価について美術蒐集のもたらした効果・影響(協力者・慶應大学通信課程講師 林克彦)美学学会誌『美学』(2010年度)に掲載予定。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計10件)

金山弘昌、ヴィラ・ボルゲーゼ：その館と庭園、視る(京都国立近代美術館ニュース) 査読無、445、2010、2-5

出佳奈子、15世紀のメディチ邸内における絵画：「記念画像」から「美術品」へ、弘前大学 教育学部紀要、査読無、102、2009、39-48

金山弘昌、フィレンツェのパラッツォ・ピッティ：ルーカ・ピッティのpalatium novum、イタリア図書、査読無、41、2009、9-15

金山弘昌、ジャック・カロが描くコンメディア・デラルテの二つのイメージ：3人のパンタローネ と スフェッサニアの踊り、慶應義塾大学日吉紀要 人文科学、査読無、24、2009、133-154

望月典子、西洋の美・色の謎とき、彩(社団法人 日本塗料工業会編) 査読無、28、2010、2-11

望月典子、書評：Marc Fumaroli, *De Rome a Paris: peinture et pouvoirs au XVIIe et XVIIIe siècles*, Dijon: Faton, 2007, 397pp、日本18世紀学会年報、査読無、24、2009、95-96

細野喜代、タルクイニウスに凌辱されるローマのルクレティア 外交手段としてのティツィアーノ作《タルクイニウスとルクレティア》、美学、査読有、60巻1号、2009、112-125

望月典子、研究ノート：政治的寓意としてのニコラ・プッサン作《ネプトゥヌスとアンフィトリテの勝利》あるいは《ウェヌスの勝利》、日仏美術学会会報、査読無、28、2009

金原由紀子、中部イタリアの共和制国家における聖遺物収集 ピストイア大聖堂を中心に 査読無 16 2009 1-16

望月典子、ニコラ・プッサンにおける古代美術とラファエッロの受容 画家の制作論および観者の期待と画家の戦略の観点から、第2章、平成19年度慶應義塾大学博士論文、2008

[学会発表](計5件)

金原由紀子、中部イタリアの共和制都市国家における聖人崇敬と聖遺物収集、民族芸術学会、2009年12月12日、お茶の水女子大学

出佳奈子、15世紀メディチ家財産目録における絵画の位置づけ、「テキストとしてのコレクション」シンポジウム、2009年1月23日、慶應義塾大学

望月典子、17世紀パリにおける美術品収集 artistement tuchee への視線、「テキストとしてのコレクション」シンポジウム、2009年1月23日、慶應義塾大学

遠山公一、メディチ家彫刻コレクションについて、「テキストとしてのコレクション」シンポジウム、2009年1月23日、慶應義塾大学

金山弘昌、調度としての絵画 17世紀ピッティ宮における絵画・タペストリーの展示、平成20年度第1回美学会東部会例会、2008年6月7日、慶應義塾大学

[図書](計6件)

望月典子、慶應義塾大学出版会、プッサン 絵画的比喩を読む、2010、510

望月典子、八坂書房、オールド・ローズ・ブック パラの美術館、2009、(担当87-181)

遠山公一、他、The Harvard University Center for Italian Renaissance Studies, Florence & Primavera Press, Leiden、2009、(担当161-204)

遠山公一、他、小学館、ルネサンス美術館、2008、496 (担当92-93,156-157,466,471-472,477,480)

金山弘昌(編集・共訳)、他、読売新聞社、ウルビーノのヴィーナス 古代からルネサンス、美の女神の系譜、2008、(担当25-34)

遠山公一(共訳・註解)、他、中論公論美術出版、ロベルト・ロンギ、ピエロ・デッラ・フランチェスカ、2008、531

6. 研究組織

(1) 研究代表者

遠山 公一 (TOYAMA KOICHI)

慶應義塾大学・文学部・教授

研究者番号：90227562

(2) 研究分担者

出 佳奈子 (IDE KANAKO)

弘前大学・教育学部・講師

研究者番号：60469426

金山 弘昌 (KANAYAMA HIROMASA)

慶應義塾大学・文学部・准教授

研究者番号：60327278

金原 由紀子 (KANEHARA YUKIKO)
尚美学園大学・総合政策学部・准教授
研究者番号：20445141

細野 喜代 (HOSONO KIYO)
慶應義塾大学・文学部・講師
研究者番号：20513287

望月 典子 (MOCHIZUKI NORIKO)
慶應義塾大学・文学部・講師
研究者番号：40449020

(3)連携研究者

末吉 雄二 (SUEYOSHI YUUJI)
慶應義塾大学・文学部・名誉教授
研究者番号：30051709